



ふじみ野市長 高畑 博氏

市長のメッセージ

昨年10月、ふじみ野市は誕生20年を迎えました。この大きな節目を市民の皆様と分かち合うべく、様々な記念事業を実施いたしました。これまでの軌跡を振り返り、輝かしい未来に向けて更に前進する機運が高まったと感じております。

近年は、活気あふれるまちづくりの推進のため、文化施設やスポーツ施設をリニューアルオープンいたしました。現在は、上福岡駅近くの公民館を文化施設として改修しており、2027年夏のオープンを目指して準備を進めています。

今後も、市の将来像である「人がつながる 豊かで住み続けたいまち ふじみ野」の実現に向け、市民の皆様と共にまちづくりを進めてまいります。

☀️ 子育て世代に人気。転入超過が続くベッドタウン

埼玉県南東部、都心から約30km圏内に位置するふじみ野市は、東武東上線で池袋まで約30分という好立地に位置する。2005年10月に旧上福岡市と旧大井町が合併して新市「ふじみ野市」が誕生。2025年に、市制20周年という節目を迎えた。

合併当初、約10万2,200人だった人口は、現在約11万4,500人に増加。近年は学生や30代の子育て世代を中心に転入超過が続いている。ふじみ野市が選ばれる背景には、ベッドタウンとしての魅力だけではない、市民ひとりひとりの暮らしに寄り添う、実直できめ細やかな取り組みの積み重ねがある。

☀️ 「オールふじみ野」で子どもと家庭を支援

ふじみ野市の子育て支援は2022年に施行した「子どもの未来を育む条例」を指針としている。子どもの権利擁護と体力増進を理念に掲げ、現在子どもの健



バスケットボール用ゴールも備わっている遊戯室。雨の日も外のびと身体を動かして、安心して遊べる場所を提供している

やかな成長を支える様々な施策を推進中だ。

妊婦等を対象にしたタクシー補助、幼児2人が同乗できる3人乗り電動アシスト式自転車のサブスクリプションサービス、子育て情報を集約した「子育て応援サイト」の開設など、生活に密着した支援が並ぶ。2026年度からは夜間の小児オンライン相談を新たに開始する予定。県内でも実施している自治体はまだ少なく、先進的な取り組みだ。

子どもの居場所づくりも積極的に取り組んでおり、市内2カ所の児童センターは年間約10万人の来場がある。夏休み中は夕方以降を中高生専用の時間帯として延長して開放し、家庭でも学校でもない「サードプレイス」を提供することで特に中高生の利用が多く、全国でも注目されている。人気コミックをそろえた図書室や、スポーツを楽しめる遊戯室もある。卒業後に顔を見せに来る若者も多く、卒業生による運営ボランティアとしての関わりも今後期待されている。児童センターの運営では、利用者である子どもたちの意見を聞く取り組みも実施。市民の声を大切にする、ふじみ野市らしい取り組みだ。

☀️ 新たな文化の拠点へ市民をつなぐ「文化行政」

現在、公民館を順次リニューアルし、「文化施設」へと生まれ変わらせる取り組みを進めている。「ステラ・イースト」、「ステラ・ウェスト」に続き、現在、3館目の改修工事が進行中。2027年夏の完成を目指している。

ふじみ野市概要

人口(2026年4月1日現在)	114,526人
世帯数(2026年4月1日現在)	56,344世帯
平均年齢(2026年1月1日現在)	47.5歳
面積	14.64km ²
製造業事業所数	116所
製造品出荷額等	1,460.1億円
卸・小売り業事業所数	494所
商品販売額等	1,037.6億円
農業産出額	12.1億円
一人当たり都市公園面積	2.23m ²

資料:経済産業省「経済構造実態調査」ほか



主な交通機関

- 東武東上線 上福岡駅
- 関越自動車道 川越ICから市役所まで約10km

これら3館の施設は、それぞれ異なる役割を担っている。ウェストは市民の文化・芸術活動を育む役割、イーストは市民が花開かせた活動を市内に共有・展開する役割、そして現在改修中の3館目は、さらに文化の活動で人々をつなぎ、地域文化活動の担い手として育てる役割という位置付けだ。単なる「箱物」を設置するだけでなく、そこに込める「魂」も含めてトータルで設計している点に、地域の未来を形づくろうとする強い意志がうかがえる。

ステラ・ウェストは開館から約2年で来館者100万人を達成した。併設の図書館にはティーンズ向けライトノベルを集めたコーナーを設置し、中高生も自然と足を向ける環境づくりを積極的に行っている。

市の東西地域をつなぐ文化芸術のシンボルとして、市民が作詞・作曲・振り付けを手がけた「ふじみ野音頭」の普及活動も展開中。地域や市民の一体感を醸成する文化の種は、着実に根を張りつつある。



2025年9月にリニューアルオープンしたステラ・イースト ホール棟。世界的に珍しいイタリア製のグランドピアノ「ファツィオリ」を設置

※ 地域と歩む企業を育てる、草の根の産業振興

子育て・文化と並び、注力するのが産業振興だ。創業5年以内の事業者を対象に経費の一部を最大3年間補助する「ふじみ野市創業支援事業ステップアップ補助金」のほか、商店街の空洞化を食い止めるべく、空き店舗対策も強化する。改装費と12カ月分の家賃を補助する制度の要件を大きく緩和し、より使いやすく見直した。金融機関とも連携しながら、創業希望者と商店街をつなぐ橋渡しに力を注ぐ。

市内に拠点を構える企業との関係づくりも特徴的だ。ものづくり企業と連携した企業間交流会を定期的で開催し、人材育成や採用など実用的な情報交換ができる場を提供。企業同士、顔の見える関係性が構築され、ビジネスへの相乗効果も生まれている。市内にある文京学院大学と連携した若手社員と学生の交流では、社員のスキルアップの効果を生んでいる。

実はふじみ野市は「ものづくりのまち」で、戦後から電波・通信分野の開発・製造拠点が集積して発展してきた。現在も特色のある高い技術力を有する企業が多くあり、その技術や製品を「もっと地域に知ってほしい」という企業の声を受け、展示会やイベント開催を通して企業と地域をつないでいる。

子育て、文化、産業。それぞれの現場で共通するのは、市民や地域の声に耳を傾け、課題に誠実に向き合う姿勢だ。行政・市民・地域がつながり、暮らしを育む。この「温かさ」が、多くの人を惹きつけてやまないこのまちの真の魅力とを感じる。(金子佐紀)